



Cisco Unity ViewMail for Microsoft Outlook 4.2(2) リリース ノート

Published August 18, 2006

このリリース ノートには、Cisco Unity ViewMail for Microsoft Outlook 4.2(2) の要件、ダウンロードとインストールの手順、新規および変更されたサポート、制約と制限事項、および未解決の警告と解決済みの警告が記載されています。



(注)

Software Center Web サイトにフルアクセスするには、Cisco.com に登録ユーザとしてログオンする必要があります。

目次

- [要件 \(P.2\)](#)
- [関連資料 \(P.3\)](#)
- [新規および変更された要件とサポート —Release 4.2\(2\) \(P.3\)](#)
- [インストールとアップグレードに関する情報 \(P.4\)](#)
- [制約および制限事項 \(P.10\)](#)
- [警告 \(P.13\)](#)
- [技術情報の入手方法 \(P.14\)](#)
- [シスコ製品のセキュリティの概要 \(P.16\)](#)
- [テクニカル サポート \(P.17\)](#)
- [その他の資料および情報の入手方法 \(P.19\)](#)

要件

- ViewMail をインストールするには、ユーザ ワークステーションのローカル管理者権限を持っている必要があります。
- ユーザ ワークステーションには、ViewMail で使用する言語ごとに 2.0 MB 以上のハードディスク空き領域が必要です。
- ViewMail をインストールする際は、ユーザ ワークステーションで Outlook を実行しないでください。また、ウィルス検出サービスを無効にしてください。
- ViewMail 4.2(2) をインストールする前に、以前にインストールした ViewMail バージョン 3.x をユーザ ワークステーションから削除する必要があります。P.10 の「ViewMail バージョン 3.x は完全にアンインストールできない」を参照してください。
- ViewMail 4.2(2) をインストールする前に、以前にインストールした ViewMail バージョン 2.4(6.x) をユーザ ワークステーションから削除する必要があります。P.5 の「以前にインストールした ViewMail バージョン 2.4(6.x) の削除」を参照してください。

互換性に関する情報

- ViewMail for Outlook、Cisco Unity (Exchange 版)、およびユーザ ワークステーション上のソフトウェアとの適合性が確認されたバージョンの組み合わせに関する情報 (ViewMail バージョン 4.2(2) リリース以降に確認された組み合わせ、およびユーザ ワークステーション上のソフトウェアのサポート ポリシーを含む) については、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps2237/products_device_support_tables_list.html にある『互換性マトリックス : Cisco Unity とユーザ ワークステーション上のソフトウェア』を参照してください。
- ViewMail 4.2(2) リリースで使用できる言語のリストは、P.3 の「ViewMail for Outlook で使用できる言語」を参照してください。

ViewMail バージョンの特定

ユーザ ワークステーション上で使用している ViewMail のバージョンを特定する方法は 2 つあります。該当するいずれかの手順を実行します。

使用している ViewMail のバージョンを[アプリケーションの追加と削除]から特定する (ViewMail バージョン 4.05 以降のみ)

ステップ 1 ユーザ ワークステーションで、[設定] > [コントロール パネル] > [アプリケーションの追加と削除] を選択します。

ステップ 2 [現在インストールされているプログラム] リストで、ViewMail for Outlook を検索します。

使用している ViewMail のバージョンを Outlook から特定する

ユーザ ワークステーション上の Outlook 受信トレイで、[ヘルプ] メニューの [バージョン情報] をクリックします。

関連資料

Cisco.com 上の Cisco Unity のドキュメントに関する説明と URL については、『Cisco Unity Documentation Guide』を参照してください。このドキュメントは Cisco Unity に同梱されており、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps2237/products_documentation_roadmaps_list.html でも入手できます。

新規および変更された要件とサポート —Release 4.2(2)

ViewMail for Outlook で使用できる言語

この項では、ViewMail で使用できる言語を示します。本リリースに新しい言語は追加されていません。

ViewMail for Outlook

中国語（香港）、中国語（PRC）、中国語（台湾）、デンマーク語（デンマーク）、オランダ語（オランダ）、英語（アメリカ合衆国）、フランス語（フランス）、ドイツ語（ドイツ）、ハンガリー語（ハンガリー共和国）、イタリア語（イタリア）、日本語（日本）、ハングル語（朝鮮）、ポーランド語（ポーランド共和国）、ポルトガル語（ブラジル）、ロシア語（ロシア連邦）、スペイン語（コロンビア）、スペイン語（スペイン）

ViewMail for Outlook ヘルプ

英語（アメリカ合衆国）

メッセージ録音用 G.729a コーデック形式のサポート

Cisco Unity ViewMail for Microsoft Outlook 4.2(2) は、メッセージの録音用に G.729a コーデック形式をサポートしています。録音には、コンピュータのマイクを使用するか、Media Master から Paste from File コマンドを使用してファイルをコピーし、G.729a 形式で貼り付けます。以前の ViewMail リリースでは、コンピュータのマイクを使用して録音されたメッセージまたは Media Master の Paste from File コマンドで貼り付けられたメッセージは、G.711 形式でしか保存できませんでした。

ViewMail 4.2(2) を新規にインストールするか、アップグレードすることによって、レジストリ キー HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\Default Wave Format がインストールされます。デフォルトでは、レジストリ キーは、メッセージの録音に G.711 形式を使用するように設定されています。G.729 形式を使用できるようにするには、管理者が ViewMail.msi ファイルのレジストリ キーの値を変更してから、ユーザワークステーションに ViewMail for Outlook をインストールする必要があります。

一度 ViewMail 4.2(2) がユーザワークステーションにインストールされると、ViewMail インストール プログラムを再度実行しても、レジストリ設定は変更されないことに注意してください。管理者は、設定管理ツール（Microsoft Systems Management Server など）を使用してレジストリ設定を変更するか、または ViewMail を一度アンインストールしてから ViewMail.msi ファイルの設定を変更し、再度 ViewMail をインストールする必要があります。

ViewMail for Outlook 4.2(2) でメッセージの録音に G.729a 形式を使用する方法の詳細については、P.4 の「インストールとアップグレードに関する情報」を参照してください。

インストールとアップグレードに関する情報

- [ViewMail 4.2\(2\) を初めてインストールする際のタスク リスト \(P.4 \)](#)
- [ViewMail 4.2\(2\) へアップグレードする際のタスク リスト \(P.4 \)](#)
- [ViewMail 4.2\(2\) へアップグレードする際の考慮事項 \(P.5 \)](#)
- [ViewMail 4.2\(2\) のダウンロード \(P.6 \)](#)
- [メッセージの録音に G.729a 形式を使用するための ViewMail 4.2\(2\) のカスタマイズ \(P.7 \)](#)
- [ViewMail 4.2\(2\) のインストール \(P.8 \)](#)

ViewMail 4.2(2) を初めてインストールする際のタスク リスト

ViewMail 4.2(2) を新規にインストールする場合は、次のタスクを順に実行してください。

1. ViewMail for Microsoft Outlook のソフトウェア ダウンロード ページから ViewMail をダウンロードします。P.6 の「[ViewMail 4.2\(2\) のダウンロード](#)」を参照してください。
2. メッセージの録音に G.729a 形式を使用しない場合は、タスク 3. に進みます。
メッセージの録音に G.729a 形式を使用する場合は、ViewMail 4.2(2) をカスタマイズします。P.7 の「[メッセージの録音に G.729a 形式を使用するための ViewMail 4.2\(2\) のカスタマイズ](#)」を参照してください。



注意

ViewMail 4.2(2) をカスタマイズしてから、ソフトウェアをインストールする必要があります。カスタマイズする前に標準版がインストールされている場合は、その版をアンインストール後、カスタマイズ版を再インストールしてメッセージの録音に G.729a 形式を使用します。

3. ViewMail 4.2(2) をインストールします。P.8 の「[ViewMail 4.2\(2\) のインストール](#)」を参照してください。

ViewMail 4.2(2) へアップグレードする際のタスク リスト

ViewMail の以前のバージョンを 4.2(2) へアップグレードする場合は、次のタスクを順に実行してください。

1. P.5 の「[ViewMail 4.2\(2\) へアップグレードする際の考慮事項](#)」を確認し、必要に応じて、バージョン 3.x または 2.4(6.x) をアンインストールします。
2. ViewMail for Microsoft Outlook のソフトウェア ダウンロード ページから ViewMail をダウンロードします。P.6 の「[ViewMail 4.2\(2\) のダウンロード](#)」を参照してください。
3. メッセージの録音に G.729a 形式を使用しない場合は、タスク 4. に進みます。
メッセージの録音に G.729a 形式を使用する場合は、ViewMail 4.2(2) をカスタマイズします。P.7 の「[メッセージの録音に G.729a 形式を使用するための ViewMail 4.2\(2\) のカスタマイズ](#)」を参照してください。



注意

ViewMail 4.2(2) をカスタマイズしてから、ソフトウェアをインストールする必要があります。カスタマイズする前に標準版がインストールされている場合は、その版をアンインストール後、カスタマイズ版を再インストールしてメッセージの録音に G.729a 形式を使用します。

- ViewMail 4.2(2) をインストールします。P.8 の「ViewMail 4.2(2) のインストール」を参照してください。

ViewMail 4.2(2) へアップグレードする際の考慮事項

ユーザは ViewMail バージョン 4.x を使用するための特殊な Class of Service (COS; サービスクラス) 特権やパスワードを持つ必要はありません。ViewMail をインストールしたすべての Cisco Unity ユニファイドメッセージユーザが使用できます。

ViewMail 4.2(2) へアップグレードする前に、以前のバージョンに関して次の事項を考慮してください。

- ViewMail バージョン 4.2(2) にアップグレードするために、バージョン 4.x をアンインストールする必要はありません。ViewMail 4.2(2) のインストールにより、以前にインストールした ViewMail バージョン 4.x は自動的に削除されます (ViewMail 4.x の削除時に問題が発生した場合は、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps2237/prod_tech_notes_list.html にあるテクニカルノート「Cisco Unity VMO Is Installed, But Not Published in Outlook」で、ViewMail を手動でアンインストールする方法に関する項を参照してください)。
- ViewMail 4.2(2) をインストールする前に、以前にインストールした ViewMail バージョン 3.1(x) または 3.0(x) をユーザワークステーションから削除する必要があります。ViewMail 3.x は、ViewMail 4.2(2) へのアップグレードと同時にアンインストールできます。または、Windows の [アプリケーションの追加と削除] を使用して削除できます。ただし、アプリケーションを完全に削除するには、さらに手順を実行する必要があります。P.10 の「ViewMail バージョン 3.x は完全にアンインストールできない」を参照してください。
- ユーザが ViewMail 2.4(6.x) を使用している場合は、バージョン 4.2(2) をインストールする前に、P.5 の「以前にインストールした ViewMail バージョン 2.4(6.x) の削除」の手順に従って ViewMail をアンインストールしてください。

以前にインストールした ViewMail バージョン 2.4(6.x) の削除

ViewMail 4.2(2) をインストールする前に、以前にインストールした ViewMail バージョン 2.4(6.x) および関連する LightningFAX レジストリキーをユーザワークステーションから削除する必要があります。

ViewMail を削除すると、ユーザが受け取る最初のボイスメッセージは、ViewMail アイコンの付いたボイスメッセージとして表示されます。ユーザがボイスメッセージを開くと、そのボイスメッセージの形式は使用できないというエラーメッセージが Outlook によって表示されます。ただし、このエラーメッセージが表示されても、ユーザはボイスメッセージを開くことができます。

2 通目以降のボイスメッセージは、ViewMail アイコンのない WAV 添付ファイル付きの電子メールメッセージとして表示されます。ユーザがメッセージを開いたときにエラーメッセージが表示されることはありません。

ViewMail バージョン 2.4(6.x) および関連する LightningFAX レジストリキーを削除する

- ステップ 1** ViewMail を実行している各ユーザワークステーションで、Windows の [スタート] メニューから、[設定] > [コントロールパネル] > [アプリケーションの追加と削除] を選択します。
- ステップ 2** [現在インストールされているプログラム] リストで、[ViewMail for Outlook] をクリックしてから [変更/削除] をクリックします。
- ステップ 3** 画面の指示に従って ViewMail for Outlook を削除します。DLL などの共有ファイルの削除を確認するプロンプトが表示されたら、[すべていいえ] をクリックします。

ステップ 4 システムが LightningFAX を使用していなかった場合は、この手順は終了です。

システムが LightningFAX を使用していた場合は、Regedit を起動します。



注意 不正なレジストリ キーの変更や、不正な値の入力によって、ワークステーションが起動しなくなることがあります。レジストリを編集する前に、問題発生時のレジストリの復元方法を確認してください（レジストリ エディタのヘルプで「レジストリを復元する」を参照してください）。レジストリ キー設定の変更に関するご質問は、Cisco TAC にお問い合わせください。

ステップ 5 レジストリの現在のバックアップがない場合は、[レジストリ] > [レジストリ ファイルの書き出し] をクリックし、ファイルにレジストリ設定を保存します。

ステップ 6 次の 2 つのレジストリ キーを削除します。

- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\App Management\ARPCache\LightningFAX 6.5 - PrintToMail
- HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\ControlSet002\Control\Print\Monitors\LightningFAX

ステップ 7 Regedit を終了します。

ViewMail 4.2(2) のダウンロード

ViewMail for Microsoft Outlook のソフトウェア ダウンロード ページから ViewMail をダウンロードするには、次の手順を実行します。

ViewMail 4.2(2) をダウンロードする

ステップ 1 ファイルの解凍場所として使用するコンピュータのハード ディスク空き領域が、ファイルのダウンロードに必要な領域の他に 3.4MB 以上あることを確認します（ダウンロード ファイルのサイズは、ダウンロード ページに表示されます）。

ステップ 2 高速インターネット接続が可能なコンピュータで、ViewMail for Microsoft Outlook のソフトウェア ダウンロード ページ（<http://www.cisco.com/cgi-bin/tablebuild.pl/unity-vmo>）に移動します。



(注) ソフトウェア ダウンロード ページにアクセスするには、Cisco.com に登録ユーザとしてログインする必要があります。

ステップ 3 CiscoUnity.VMO4.2.2.exe ファイルを任意のディレクトリにダウンロードします。

- ステップ 4** CiscoUnity.VMO4.2.2.exe をダブルクリックし、画面の指示に従って選択したネットワーク ドライブの任意のディレクトリにファイルを解凍します（あるいは書き込み可能な CD に解凍して、後でネットワークにコピーします）。

選択したディレクトリ内に CiscoUnity.VMO4.2.2 ディレクトリが作成され、そこにファイルが解凍されます。

- ステップ 5** CiscoUnity.VMO4.2.2.exe ファイルを削除して、ハード ディスクの空き領域を増やします。

メッセージの録音に G.729a 形式を使用するための ViewMail 4.2(2) のカスタマイズ

ViewMail 4.2(2) のインストールまたはアップグレードを開始する前に、この項の手順を実行してください。

ViewMail 4.2(2) の標準版がすでにインストールされている場合、ViewMail のカスタマイズ版を再インストールしたり、この機能をイネーブルにするために修復オプションを使用したりすることはできません（標準版がすでにインストールされている状態でメッセージの録音に G.729a 形式を使用するには、標準版をアンインストールし、この項の手順に従って ViewMail をカスタマイズしてから、カスタマイズ版をインストールしてください。または、すべてのユーザワークステーションでレジストリキー

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\Default Wave Format の値を 5 に変更することもできます）。

メッセージの録音に G.729a 形式を使用するために ViewMail 4.2(2) をカスタマイズする

- ステップ 1** ViewMail ファイルをダウンロードしたネットワーク ドライブで ViewMail ディレクトリを表示します。このディレクトリへの書き込み権限がない場合は、書き込み権限のあるディレクトリにファイルを移します。
- ステップ 2** ViewMail ディレクトリで、ENU 言語のフォルダを表示します。
- ステップ 3** メモ帳などのテキスト エディタで VMOInit.vbs ファイルを開きます。
- ステップ 4** `Session.Property("DefaultWaveFormat") = "5"` 行（End Function 行の直前）の前にある `rem` テキストを削除します。

次の例を参考にしてください。

```
Function VMOInitFn()
rem Session.Property("EXTENSION") = ""
rem Session.Property("UNITYSERVER") = ""
rem To enable NoTextToVM, set property NOTEXTTOVM to 1
rem Session.Property("NOTEXTTOVM") = "1"
rem To enable g729a recording, set property DefaultWaveFormat to 5
Session.Property("DefaultWaveFormat") = "5"
End Function
```

- ステップ 5** スクリプト ファイルを保存し、テキスト エディタを閉じます。
- ステップ 6** [コマンド プロンプト] ウィンドウを開きます（Windows の [スタート] メニューで、[プログラム] > [アクセサリ] > [コマンド プロンプト] をクリックします）。

ステップ 7 ViewMail > ENU ディレクトリに移動します。

ステップ 8 「vmaddbin ViewMail.msi VMOInit.vbs」と入力し、Enter を押します（スクリプトが完了すると、カーソルがコマンドラインに復帰します）。

ステップ 9 テスト機で ViewMail.msi ファイルを実行し、インストールが正常に完了したことを確認します（インストールが正常に完了しなかった場合は、VMOInit.vbs に対して行われた変更を確認してください）。

ステップ 10 [コマンド プロンプト] ウィンドウを閉じます。

ViewMail 4.2(2) のインストール

ViewMail は、さまざまな方法で組織内のユーザ ワークステーションにインストールできます。インストールおよび展開には、次のような方法があります。

- ViewMail をディスクまたはネットワーク ドライブからインストールする。P.9 の「[ネットワーク ドライブからの ViewMail 4.2\(2\) のインストール](#)」を参照してください。また、ユーザが自分で ViewMail をインストールできるように、ViewMail セットアップ プログラムへのネットワーク アクセスを提供し、手順を通知することも検討してください。
- Microsoft IntelliMirror や Systems Management Server(SMS)バージョン 1.2/2.0 などのソフトウェア配布ツールを使用して、ViewMail を複数のユーザ ワークステーションに一度に展開する。これらのツールの使用法については、Microsoft の Web サイトを参照してください。
IntelliMirror を使用して ViewMail を展開する場合は、個々のユーザではなくコンピュータに対して ViewMail を割り当てるか配布します。また、IntelliMirror や SMS を利用して ViewMail の将来のアップグレードを配布することもできます。
- Office 2000 パッケージまたは Office XP パッケージの一部として、Microsoft Office とともに ViewMail を展開する。



注意

ユーザワークステーション上に新しいバージョンの Microsoft Outlook をインストールする場合は、最初に ViewMail をアンインストールする必要があります。Microsoft Outlook をインストールした後で、ViewMail を再インストールします。この作業を行わない場合、ViewMail は新しいバージョンの Outlook とともに正しくインストールされているように見えても、実際は機能しません。

デフォルトでは、ViewMail のファイルは C:\Program Files\ViewMail ディレクトリにインストールされます。ViewMail を初めてインストールする場合は、別のディレクトリを指定することもできます。ViewMail バージョン 4.0x からアップグレードしている場合、バージョン 4.2(2) は前のバージョンと同じディレクトリにインストールされます。

ViewMail では、次のファイルとレジストリ キーをインストールして使用します。

ファイル ¹	<ul style="list-style-type: none"> • AvResLoaderSvrSL.dll • AvResSvr.dll • AvTrapConnectionHolderSvr.dll • AvTsmSL.dll • AvVox.acm • AvWavSL.dll • SL_g729a.acm
レジストリキー	<ul style="list-style-type: none"> • HKEY_CURRENT_USER\Software\Cisco Systems\Cisco Unity\Media Master\Profiles • HKEY_CURRENT_USER\Software\Cisco Systems\Cisco Unity\Media Master\Profiles\default • HKEY_CURRENT_USER\Software\Cisco Systems\Cisco Unity\Media Master\Profiles\<subscriber 1 alias> • HKEY_CURRENT_USER\Software\Cisco Systems\Cisco Unity\Media Master\Profiles\<subscriber 2 alias> • HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\Default Wave Format • HKEY_CURRENT_USER\Software\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\Options • HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Active Voice • HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco Systems\Cisco Unity\VMO\NoTextToVM • HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Exchange\Client\Extensions\ViewMail Extensions

1. Windows のバージョンに応じて、ファイルは C:\Windows\System、C:\Winnt\System32、または C:\Windows\System32 のいずれかのディレクトリにインストールされます。

ネットワーク ドライブからの ViewMail 4.2(2) のインストール

ネットワーク ドライブからユーザが使用するワークステーションに ViewMail をインストールするには、この項の手順を実行します。1 台のワークステーションを共有する複数のユーザ用に ViewMail をインストールすることもできます。

ネットワーク ドライブから ViewMail 4.2(2) をインストールする

-
- ステップ 1** ViewMail の要件が満たされていることを確認します。P.2 の「要件」を参照してください。
- ステップ 2** ViewMail ファイルをダウンロードしたネットワーク ドライブで ViewMail ディレクトリを表示します。
- ステップ 3** ViewMail ディレクトリで、該当する言語のフォルダを表示します (ViewMail ディレクトリには、ViewMail がサポートしている言語ごとに個別のフォルダがあります)。
- ステップ 4** ViewMail.msi ファイルをダブルクリックします。
- ステップ 5** 画面の指示に従ってインストールを完了します。
-

制約および制限事項

Authentium Command AntiVirus for Windows はサポートされない

Authentium Command AntiVirus for Microsoft Windows は、Cisco Unity のユーザワークステーションではサポートされません。

ユーザワークステーション上の一部のソフトウェアによって ViewMail がエラーになる

一部のセキュリティソフトウェアおよび VPN ソフトウェアがユーザワークステーションにインストールされていると、ユーザが電話を Media Master の再生デバイスとして使用したときに、ViewMail がエラーになる可能性があります。特に、パーソナルファイアウォールを提供するソフトウェアでは問題が発生しやすいと考えられます。

セキュリティソフトウェアと VPN ソフトウェアを使用不可にするか、ユーザワークステーションから削除してください。または、ユーザが ViewMail のメッセージをコンピュータのスピーカで再生できるように Media Master を設定します。

ユーザのメールボックスがいっぱいになると ViewMail フォームがロードされない

ユーザのメールボックスが [送受信を禁止する] の制限値に達している場合は、ユーザが Outlook を起動しても ViewMail はロードされません。ViewMail フォームは、メールボックスのサイズを小さくするまでパブリッシュできません。

ViewMail バージョン 3.x は完全にアンインストールできない

ViewMail バージョン 3.1(x) または 3.0(x) をアンインストールしようとする、ViewMail は通常、完全にアンインストールできません。一部の ViewMail ファイルがユーザワークステーションに、ViewMail のコンポーネントが Outlook に残ります。また ViewMail は、Windows の [アプリケーションの追加と削除] のリストから削除されません。さらに、ViewMail バージョン 3.x をアンインストールすると、Windows 2000 の Dr.Watson エラー ログまたは Windows 98 のアプリケーション違反エラーが生成されます。

詳細については、警告 CSCdv16845 を参照してください。Bug Toolkit は、http://www.cisco.com/cgi-bin/Support/Bugtool/launch_bugtool.pl から入手できます。

この警告は ViewMail 4.0(x) では解決されていますが、それ以前のバージョンでは解決されていないことに注意してください。以前のバージョンの場合は、次の 3 つの手順を順番に実行して、ユーザワークステーションから残りの ViewMail ファイルを、Outlook から ViewMail コンポーネントを、また Windows の [アプリケーションの追加と削除] から ViewMail のリストを、それぞれ手動で削除します。

ユーザワークステーションから ViewMail ファイルを削除する

ステップ 1 Program Files\ViewMail ディレクトリとそのコンポーネントをすべて削除します。

ステップ 2 次の 7 つのファイル（存在する場合）を、Windows のバージョンに応じて C:\Windows\System、C:\Winnt\System32、または C:\Windows\System32 のいずれかのディレクトリから削除します。

- AvResLoaderSvrSL.dll
- AvTrapConnectionHolderSvr.exe
- AvTsmSL.dll
- AvVox.acm
- AvWavSl.dll
- AvResSvr.dll
- SL_G729A.acm

Outlook から ViewMail コンポーネントを削除する

ステップ 1 Outlook の [ツール] メニューで、[オプション] をクリックします。

ステップ 2 [その他] タブをクリックし、[詳細オプション] をクリックします。

ステップ 3 [詳細オプション] ダイアログボックスで、[ユーザ設定フォーム] をクリックします。

ステップ 4 [オプション] ダイアログボックスで、[フォームの管理] をクリックします。

ステップ 5 [フォーム マネージャ] ダイアログボックスの [個人用フォーム] に ViewMail for Outlook が表示されていることを確認します。

ステップ 6 [ViewMail for Outlook] を選択し、[削除] をクリックします。プロンプトが表示されたら、[はい] をクリックしてフォームを削除します。

ステップ 7 [閉じる] をクリックして、[OK] をクリックします。

ステップ 8 [詳細オプション] ダイアログボックスで [アドイン マネージャ] をクリックします。

ステップ 9 [アドイン マネージャ] ダイアログボックスで、[ViewMail Extensions] チェックボックスのチェックを解除して、[OK] をクリックします。

ステップ 10 [OK] をクリックして残りのダイアログボックスを閉じます。

ステップ 11 Regedit を起動します。



注意

不正なレジストリ キーの変更や、不正な値の入力によって、ワークステーションが起動しなくなることがあります。レジストリを編集する前に、問題発生時のレジストリの復元方法を確認してください（レジストリ エディタのヘルプで「レジストリを復元する」を参照してください）。レジストリ キー設定の変更に関するご質問は、Cisco TAC にお問い合わせください。

ステップ 12 レジストリの現在のバックアップがない場合は、[レジストリ] > [レジストリ ファイルの書き出し] をクリックし、ファイルにレジストリ設定を保存します。

ステップ 13 次のキーを展開します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Exchange\Client\Extensions

ステップ 14 [ViewMail Extensions] キーを削除します。

ステップ 15 Regedit を終了します。

ステップ 16 Outlook を再起動します。

Windows の [アプリケーションの追加と削除] のリストから ViewMail を手動で削除する

Microsoft Product Support Services Web サイトの Knowledge Base 記事 247501(*How to Manually Remove Programs from the Add/Remove Programs List*) を参照してください。

Windows ターミナル サービスはサポートされない

Windows Terminal Services (WTS; Windows ターミナル サービス) は、ViewMail を使用するユーザワークステーションではサポートされません。

YAMAHA 製のシンセサイザ ソフトウェアはサポートされない

YAMAHA 製のサウンド シンセサイザ ソフトウェアは、ViewMail を使用する Cisco Unity ユーザワークステーションではサポートされません。

警告

この項には、重大度 1、2、および 3 の警告が記載されています。

顧客が必要に応じて問題点を問い合わせることができるオンライン ツール、Bug Toolkit を使用して、すべてのリリースについての重大度の警告だけでなく、ViewMail for Outlook 4.2(2) に関する最新の警告情報も検索できます。Bug Toolkit は、

http://www.cisco.com/pcgi-bin/Support/Bugtool/launch_bugtool.pl から入手できます。



(注)

Bug Toolkit にアクセスするには、Cisco.com に登録ユーザとしてログオンする必要があります。

この項には、ViewMail for Outlook リリース 4.2(2) に関する警告だけが記載されています。ViewMail の以前のバージョンに関する警告については、当該バージョンのリリース ノートを参照してください。ViewMail for Outlook のどのバージョンのリリース ノートも、

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps2237/prod_release_notes_list.html から入手できます。

Release 4.2(2) の未解決の警告

Bug Toolkit で警告に関する最新情報を表示するには、警告番号の列のリンクをクリックしてください。

表 1 ViewMail リリース 4.2(2) の未解決の警告

警告番号	重大度	コンポーネント	説明
CSCsc17824	3	viewmail	VMO が、Outlook の送信トレイ フォルダにボイス メッセージのコピーを保存することがあります。

Release 4.2(2) の解決済みの警告

Bug Toolkit で警告に関する最新情報を表示するには、警告番号の列のリンクをクリックしてください。

表 2 ViewMail リリース 4.2(2) の解決済みの警告

警告番号	重大度	コンポーネント	説明
CSCsf03101	3	viewmail	VMO : 4.21、4.22、5.0 へのアップグレードの際、一部のレジストリ設定が保持されません。

技術情報の入手方法

シスコの製品マニュアルやその他の資料は、Cisco.com でご利用いただけます。また、テクニカルサポートおよびその他のリソースを、さまざまな方法で入手することができます。ここでは、シスコ製品に関する技術情報を入手する方法について説明します。

Cisco.com

マニュアルの最新版は、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/techsupport>

シスコの Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com>

各国のシスコ Web サイトには、次の URL からアクセスできます。

http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml

シスコ製品の最新資料の日本語版は、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp>

このマニュアルには、日本語化されたマニュアル名と英語版 URL が併記された箇所があります。日本語版マニュアルを参照する場合は、次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/index_uc.shtml

Product Documentation DVD (英語版)

Product Documentation DVD は、技術情報を包含する製品マニュアルをポータブルなメディアに格納した、包括的なライブラリです。この DVD を使用することにより、シスコ製の各ハードウェアやソフトウェアのインストール、コンフィギュレーション、およびコマンドに関する複数のバージョンのマニュアルにアクセスできます。また、この DVD を使用すると、シスコの Web サイトで参照できるのと同じ HTML マニュアルに、インターネットに接続せずにアクセスできます。一部の製品については、PDF 版のマニュアルもご利用いただけます。

Product Documentation DVD は、1 回単位で入手することも、または定期購読することもできます。Cisco.com 登録ユーザ (Cisco Direct Customers) の場合は、Cisco Marketplace から Product Documentation DVD (product number DOC-DOCDVD= または DOC-DOCDVD=SUB) を発注できます。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

マニュアルの発注方法 (英語版)

Cisco.com 登録ユーザの場合は、Cisco Marketplace の Product Documentation Store からシスコ製品の英文マニュアルを発注できるようになっています。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

Cisco.com に登録されていない場合、製品を購入された代理店へお問い合わせください。

シスコシステムズマニュアルセンター

シスコシステムズマニュアルセンターでは、シスコ製品の日本語マニュアルの最新版を PDF 形式で公開しています。また、日本語マニュアル、および日本語マニュアル CD-ROM もオンラインで発注可能です。ご希望の方は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

また、シスコシステムズマニュアルセンターでは、日本語マニュアル中の誤記、誤植に関するコメントをお受けしています。次の URL の「製品マニュアル内容不良報告」をクリックすると、コメント入力画面が表示されます。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

なお、技術内容に関するお問い合わせは、この Web サイトではお受けできませんので、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。

シスコ製品のセキュリティの概要

シスコでは、オンラインの Security Vulnerability Policy ポータル (英文のみ) を無料で提供していません。URL は次のとおりです。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このサイトで、次の情報を確認できます。

- シスコ製品のセキュリティ脆弱性を報告する。
- シスコ製品に伴うセキュリティ事象についてサポートを受ける。
- シスコからセキュリティ情報を受け取るための登録をする。

シスコ製品に関するセキュリティ勧告、セキュリティ注意事項、およびセキュリティ対応に関する最新のリストには、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/go/psirt>

セキュリティ勧告、セキュリティ注意事項、およびセキュリティ対応がアップデートされた時点でリアルタイムに確認する場合は、次の URL から Product Security Incident Response Team Really Simple Syndication (PSIRT RSS) フィードを利用できます。PSIRT RSS フィードの利用方法については、次の URL を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_psirt_rss_feed.html

シスコ製品のセキュリティ問題の報告

シスコでは、セキュアな製品を提供すべく全力を尽くしています。製品のリリース前には内部でテストを行い、すべての脆弱性を早急に修正するよう努力しています。万一、シスコ製品に脆弱性が見つかった場合は、PSIRT にご連絡ください。

- 緊急の場合 : security-alert@cisco.com (英語のみ)
緊急とは、システムがアクティブな攻撃を受けている場合、または至急の対応を要する重大なセキュリティ上の脆弱性が報告されている場合を指します。これに該当しない場合はすべて、緊急でないと思なされます。
- 緊急でない場合 : psirt@cisco.com (英語のみ)

緊急の場合は、電話で PSIRT に連絡することもできます。

- 1 877 228-7302 (英語のみ)
- 1 408 525-6532 (英語のみ)



ヒント

シスコに機密情報をお送りいただく際には、PGP (Pretty Good Privacy) または互換製品 (GnuPG など) を使用して、暗号化することをお勧めします。PSIRT は、PGP バージョン 2.x から 9.x で暗号化されている情報に対応しています。

無効になった、または有効期限が切れた暗号キーは、絶対に使用しないでください。PSIRT に連絡する際に使用する正しい公開鍵には、Security Vulnerability Policy ページの Contact Summary セクションからリンクできます。次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このページ上のリンクからは、現在使用されている最新の PGP 鍵の ID にアクセスできます。

PGP を持っていない、または使用していない場合は、機密情報を送信する前に前述のメールアドレスまたは電話番号で PSIRT に問い合わせ、他のデータ暗号化方法を確認してください。

テクニカル サポート

Cisco Technical Support では、24 時間テクニカル サポートを提供しています。Cisco.com の Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、多数のサポート リソースをオンラインで提供しています。また、シスコと正式なサービス契約を交わしているお客様には、Cisco Technical Assistance Center (TAC) のエンジニアが電話でのサポートにも対応します。シスコと正式なサービス契約を交わしていない場合は、代理店にお問い合わせください。

Cisco Technical Support & Documentation Web サイト

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、シスコ製品やシスコの技術に関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、オンラインでマニュアルやツールを提供しています。この Web サイトは、24 時間、いつでも利用可能です。URL は次のとおりです。

<http://www.cisco.com/techsupport>

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトのツールにアクセスするには、Cisco.com のユーザ ID とパスワードが必要です。サービス契約が有効で、ユーザ ID またはパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>



(注)

Web または電話でサービス リクエストを発行する前に、Cisco Product Identification (CPI) ツールを使用して製品のシリアル番号を確認してください。CPI ツールには、Cisco Technical Support & Documentation Web サイトから、Documentation & Tools の下の **Tools & Resources** リンクをクリックするとアクセスできます。アルファベット順の索引ドロップダウン リストから **Cisco Product Identification Tool** を選択するか、Alerts & RMAs の下の **Cisco Product Identification Tool** リンクをクリックします。CPI ツールには、3 つの検索オプションがあります。製品 ID またはモデル名による検索、ツリー表示による検索、**show** コマンド出力のコピー アンド ペーストによる特定製品の検索です。検索結果では、製品が図示され、シリアル番号ラベルの位置が強調表示されます。ご使用の製品でシリアル番号ラベルを確認し、その情報を記録してからサービス コールをかけてください。

Japan TAC Web サイト

Japan TAC Web サイトでは、利用頻度の高い TAC Web サイト (<http://www.cisco.com/tac>) のドキュメントを日本語で提供しています。Japan TAC Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac>

サポート契約を結んでいない方は、「ゲスト」としてご登録いただくだけで、Japan TAC Web サイトのドキュメントにアクセスできます。Japan TAC Web サイトにアクセスするには、Cisco.com のログイン ID とパスワードが必要です。ログイン ID とパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://www.cisco.com/jp/register>

サービス リクエストの発行

オンラインの TAC Service Request Tool を使用すると、S3 と S4 のサービス リクエストを短時間でオープンできます (S3: ネットワークに軽微な障害が発生した、S4: 製品情報が必要である)。状況を入力すると、その状況を解決するための推奨手段が検索されます。これらの推奨手段で問題を解決できない場合は、シスコのエンジニアが対応します。TAC Service Request Tool には、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

S1 または S2 のサービス リクエストの場合、またはインターネットにアクセスできない場合は、Cisco TAC に電話でお問い合わせください (S1: ネットワークがダウンした、S2: ネットワークの機能が著しく低下した)。S1 および S2 のサービス リクエストには、シスコのエンジニアがすぐに割り当てられ、業務を円滑に継続できるようサポートします。

Cisco TAC の連絡先については、次の URL を参照してください。

<http://www.cisco.com/techsupport/contacts>

サービス リクエストのシビラティの定義

シスコでは、報告されるサービス リクエストを標準化するために、シビラティを定義しています。

シビラティ 1 (S1): 既存のネットワークがダウンした状態か、業務に致命的な損害が発生した場合。お客様およびシスコが、24 時間体制でこの問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 2 (S2): 既存のネットワーク動作が著しく低下したか、シスコ製品が十分に機能しないため、業務に重大な影響を及ぼした場合。お客様およびシスコが、通常の業務中の全時間を費やして、この問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 3 (S3): ネットワークの動作パフォーマンスが低下しているが、ほとんどの業務運用は継続できる場合。お客様およびシスコが、業務時間中にサービスを十分なレベルにまで復旧させる必要があると判断した場合。

シビラティ 4 (S4): シスコ製品の機能、インストレーション、コンフィギュレーションについて、情報または支援が必要な場合。業務の運用には、ほとんど影響がありません。

その他の資料および情報の入手方法

シスコの製品、テクノロジー、およびネットワーク ソリューションに関する情報について、さまざまな資料をオンラインおよび印刷物で入手できます。

- 『Cisco Product Quick Reference Guide』は手軽でコンパクトな参照ツールです。チャネルパートナー経由で販売される多くのシスコ製品に関する簡単な製品概要、主要な機能、サンプル部品番号、および簡単な技術仕様を記載しています。年 2 回の更新の際には、シスコの最新情報が収録されます。『Cisco Product Quick Reference Guide』の注文方法および詳細については、次の URL にアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/go/guide>
- Cisco Marketplace では、シスコの書籍やリファレンス ガイド、マニュアル、ロゴ製品を数多く提供しています。購入を希望される場合は、次の URL にアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/go/marketplace/>
- Cisco Press では、ネットワーキング全般、トレーニング、および認定資格に関する書籍を広範囲にわたって出版しています。これらの出版物は、初級者にも上級者にも役立ちます。Cisco Press の最新の出版物やその他の情報を調べるには、次の URL から Cisco Press にアクセスしてください。
<http://www.ciscopress.com>
- 『Packet』はシスコシステムズが発行する技術者向けの雑誌で、インターネットやネットワークへの投資を最大限に活用するために役立ちます。本誌は季刊誌として発行され、業界の最先端トレンド、最新テクノロジー、シスコ製品やソリューション情報が記載されています。また、ネットワーク構成およびトラブルシューティングに関するヒント、コンフィギュレーション例、カスタマー ケース スタディ、認定情報とトレーニング情報、および充実したオンラインサービスへのリンクの内容が含まれます。『Packet』には、次の URL からアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/packet>
日本語版『Packet』は、米国版『Packet』と日本版のオリジナル記事で構成されています。日本語版『Packet』には、次の URL からアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/news/packet/>
- 『iQ Magazine』はシスコシステムズの季刊誌で、成長企業が収益を上げ、業務を効率化し、サービスを拡大するためには技術をどのように利用したらよいかを学べるように構成されています。本誌では、事例とビジネス戦略を挙げて、成長企業が直面する問題とそれを解決するための技術を紹介し、読者が技術への投資に関して適切な決定を下せるよう配慮しています。『iQ Magazine』には、次の URL からアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/go/iqmagazine>
デジタル版には、次の URL からアクセスできます。
<http://cisoiq.texterity.com/cisoiq/sample/>
- 『Internet Protocol Journal』は、インターネットおよびイントラネットの設計、開発、運用を担当するエンジニア向けに、シスコが発行する季刊誌です。『Internet Protocol Journal』には、次の URL からアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/ipj>
- シスコシステムズが提供するネットワーキング製品、および各種のカスタマー サポート サービスは、次の URL から入手できます。
<http://www.cisco.com/en/US/products/index.html>
- Networking Professionals Connection は対話形式の Web サイトです。このサイトでは、ネットワーキング製品やテクノロジーに関する質問、提案、および情報をネットワーキング担当者がシスコの専門家や他のネットワーキング担当者と共に共有できます。次の URL にアクセスしてディスカッションに参加してください。
<http://www.cisco.com/discuss/networking>
- シスコは、国際的なレベルのネットワーク関連トレーニングを実施しています。最新情報については、次の URL からアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/en/US/learning/index.html>

CCSP, CCVP, the Cisco Square Bridge logo, Follow Me Browsing, and StackWise are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn, and iQuick Study are service marks of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, FormShare, GigaDrive, GigaStack, HomeLink, Internet Quotient, IOS, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, the Networkers logo, Networking Academy, Network Registrar, Packet, PIX, Post-Routing, Pre-Routing, ProConnect, RateMUX, ScriptShare, SlideCast, SMARTnet, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0601R)

このドキュメントで使用しているインターネット プロトコル (IP) アドレスは、実在のアドレスではありません。ドキュメント中で示される例、コマンドの画面出力、および図は、いずれも視覚的な説明のみを目的としています。実在する IP アドレスが例示されていた場合、それらは意図して使用したものではありません。

Copyright © 2006 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

お問い合わせは、購入された各代理店へご連絡ください。

シスコシステムズでは以下のURLで最新の日本語マニュアルを公開しております。
本書とあわせてご利用ください。

Cisco.com 日本語サイト

http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/

日本語マニュアルの購入を希望される方は、以下のURLからお申し込みいただけます。

シスコシステムズマニュアルセンター

<http://www2.hipri.com/cisco/>

上記の両サイトで、日本語マニュアルの記述内容に関するご意見もお受けいたしますので、
どうぞご利用ください。

なお、技術内容に関するご質問は、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。



シスコシステムズ株式会社

URL:<http://www.cisco.com/jp/>

問合せ URL:<http://www.cisco.com/jp/service/contactcenter/>

〒 107-0052 東京都港区赤坂 2-14-27 国際新赤坂ビル東館

TEL.03-5549-6500 FAX.03-5549-6501